

●財政金融委員会

平成28年2月18日（木）

{ 日本銀行総裁 黒田東彦 }

（主な論点）

冒頭、量的緩和・異次元緩和の効果につき、なぜ2%の物価安定目標を達成できなかったのか質した。

黒田日銀総裁は、2014年夏以降の原油価格の大幅下落の影響が非常に大きいとし、生鮮食品とエネルギーを除く消費者物価の前年比は27ヶ月プラスであり、物価の基調は確実に改善している、原油価格が緩やかに上昇すれば、2017年度前半には2%程度に達すると答弁した。

次に、アメリカの雑誌や名のあるエコノミスト誌では、世界経済の7年、8年周期説が言われているが、このマクロ経済の周期説につき、黒田総裁の印象を質した。

黒田総裁は、景気に対する一つの見方であり、その循環論は必ずしも当たっていない。足下の経済、長い目で見た長期的な経済の動向を見ていくのが適切だと答弁した。

最後に、今、長期停滞のスローグロースという言葉がささやかれ始めている。人口減少社会に入り、世界も高齢化する中、長期にわたる成長を見込むのは難しいと懸念を示した上で、マイナス金利政策の成功を求めて質疑を締め括った。